

阿波・知和・高倉地域

地域づくりの今とこれから

地域づくりには、いろいろなカタチがあります。阿波・知和・高倉地域で地域づくり積極的に取り組む4人に、地域づくりの今とこれからについて語ってもらいました。(敬称略)

地域づくりの「今」と課題

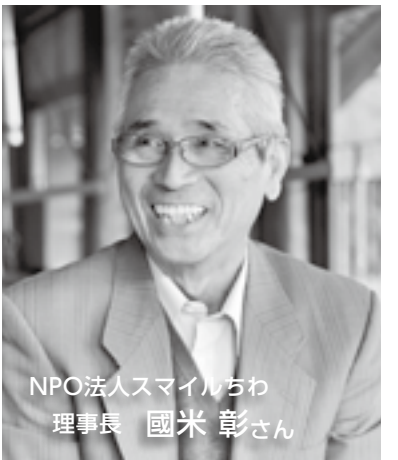
小椋 平成21年、阿波地域が「にほんの里100選」に選ばれ、地域を盛り上げていくという気運が、一層高まりました。

そして、平成22年、市の住民自治協議会事業に採択され、エコビレッジ阿波構想に基づく活動が始まり、現在まで続いています。地元に残って、頑張っている若者が少ないことが、一番の悩みですね。



エコビレッジ阿波推進協議会 会長 小椋 憲さん

田中 暮らしを支え合う目的で「NPO 法人エコビレッジあば」を設立しました。現在、高齢者の外出支援と除雪作業を行っています。外出支援の運転ボランティアには10人に登録してもらい、



NPO法人スマイルいちわ 理事長 國米 彰さん

除雪ボランティアには37人が手を挙げてくれました。これは、地域のみんが支え合い、助け合おうという気持ちがあることの現れです。これが阿波の底力だと思います。

課題は、外出支援の運行エリアが限られていることです。阿波地域外への要望をよく耳にしますが、制度の問題で、できていないのが現状です。

國米 知和は、80戸で人口は約220人の小さな地域です。みんなが年を取っていく中で、3年ほど前から「これから先、どうなるのだろう」と不安に思う声が上がりが始めました。そこで、地域で話し合い「みんなが家族だと考えればいいじゃないか。そういう気持ちで支え合えば、何とかな



NPO法人エコビレッジあば 理事長 田中 弘さん

國米 「今はいいけれど、10年後、20年後にどうなるのかをみんな考えてよう」「きつなくても今からやっています。月に一回開催するスマイルちわの会議には、役員だけでは



高倉地域のふれあいの森・プレ=パーク



高倉自治協議会 和田 瑞穂さん

自分たちの力でやりましょう」ということを伝えていきたいと考えています。

田中 もちろん、若者の活力は地域にとって大切です。期待もしています。

しかし、若者や行政に依存するのではなく、阿波に暮らし人たちの智慧と力を発揮していくことが、何よりも大切だと思います。

地域づくりの「これから」

和田 普段、仕事をしながら地域の活動をしているので「無理をしない」「できなかったとしても責めない」「ありがとうという気持ち」で活動していくことが一番大切だと思っています。年配者にできない部分を若者が請け負い、いろいろな所に出掛け、たくさんの人と出会って「縁」を結び、良いアイデアを高倉に持ち帰ることが、わたしたちの役目です。

高倉にあるものを生かし、全国に高倉の良さを発信していきたいですね。

田中 外出支援で、阿波地域外の医療機関までの運行ができるようになる、住民の皆さんの意識は必ず変わってくると思います。住み続けられる安心感を持ってもらえるようになるのではないのでしょうか。今後、ますます高齢化が進むと思います。誰もが住み慣れた「ふるさと阿波」に長く



知和地域の合わせ柿作り

小椋 どうやって地域を守っていくか、維持していくかをいつも考えています。高齢者が阿波で過ごしていけるように頑張っていきたいですね。それぞれの地域で、状況や取り組みの内容は違っていますが、地域の課題や困り事を目に向け、知恵を出し合っていくことから始めていくことなどは同じだなと感じました。これからも、笑顔で住み続けられる地域づくりに頑張りたいです。



左から田中さん、小椋さん、國米さん、和田さん

「るんじゃないか」という思いでまとまりました。昨年12月、NPO 法人「スマイルちわ」を設立し、45人の会員が、休耕田や家の周りの草刈り、墓掃除などを行っています。今年には休耕田に作付けしたもち米で、餅つき大会を計画しています。また、各家庭で作っている野菜を持ち寄り、安く販売する「ふれあいマーケット」を年4回開

いています。電気代や事務費などの運営費を、どのように賄っていくかが悩みどころですね。
和田 高倉地域(3町内会)は、668戸で人口は約1750人です。町内会長同士の話し合いの中で、「もうダメだ」という状況になる前に、何かをしようということになりました。そして、平成23年、高倉自治協議会を立ち上げ、その翌年、地域づくりリーダー養成講座「たかくら塾」を開催し